

令和5年度自己評価表1-1：小学部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
小 学 部	<p>小学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、児童一人一人の可能性を伸ばしながら、集団生活でのルールを知り、学校や家庭でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基本的生活習慣を身に付け、健康な身体づくりに取り組む。 ・ことば・かずなどの学習の基礎となる知識、自分の意思を身近な人に伝える力を育てる。 <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の良さに気付き、友達と仲良くしようとする態度を育てる。 ・身近な人との関わりの中で、して良いことと悪いことが分かり、決まりを守ろうとする態度を育てる。 <p>〔学びに向かう力、人間性等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活や学習に意欲や自信をもって取り組む態度を育てる。 	①主体的・対話的で深い学びにつながるような授業改善や、ICT機器の活用などに取り組み、多様化する障害や個々の児童の教育的ニーズに応じた教育実践を行う。	B	○国語・算数では、様々な学年で習熟度別グループでの学習が実施され、研究授業を通して、職員間で学び合うことができた。教師に一人一台タブレットが配付されたことで、指導に活用しやすくなり、低学年でもタブレットや映像を活用した授業が行われるようになった。
		②児童に、夢や願いをもって主体的に学ぼうとする態度、集団生活における自律心を育成することができるよう、各学年や学部全体で連携・協力した指導を行う。	B	○学部行事や集会を複数回実施し、学年を超えて関わる場面を設定したり、高学年の行事や姿に憧れを抱いたり、学部内で連携協力した指導を行うことができた。 ●学部間で交流をする機会がほとんどないため、6年生が中学部のことを知る機会が少ないという反省があった。
		③コンプライアンスの遵守とともに、児童・職員の人権に対する意識を高め、互いを大切にすることを教育を行う。	A	○低学年での花丸を活用した評価や、キャリア・パスポートの保護者コメントを授業で活用すること、児童が自分の課題や成長に気付くことができるような振り返り学習を設定することなどで、児童に達成感や自己有用感をもたせる指導を行うことができた。
		④児童が安全に過ごすことができるよう、教育環境の点検・整備、工事期間における行事や授業の工夫、ろう学校との連絡調整を行う。	B	○虹のまつり、授業参観など、今年になり期日を変更した行事もあったが、おおむねスムーズに実施できた。 ●ろう学校との運動場使用の調整は、教務主任と体育健康部で行い、授業を実施することができた。毎回道具を運ぶことへの負担が大きという反省が多く出された。
		⑤家庭や関係機関と連携・協働しながら、根拠のある指導を行うとともに、学校教育についての情報発信や理解・啓発に努める。	A	○連絡帳、学級・学部通信、授業参観案内等を活用し、授業のねらいや学習活動の様子を保護者に発信し、理解啓発に努めることができた。 ○ケース会議や通院同行を通して、医療や福祉機関と児童の目標や手立ての共有、情報交換を行うことができた。

改善策について

重点目標の番号	改善策
②	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の6年生の中学部作業体験以外にも、中学部の見学をする機会を設定したり、次年度の体験の方法について検討したりする。 ・工事期間が終わるまでの道具の保管場所については、ろう学校と学校間で話し合い、改善策を検討する必要がある。
④	

令和5年度自己評価表1-2：中学部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	本年度重点目標	評価	成果(○)と課題(●)
中 学 部	<p>中学部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を高めながら自律心を育て、学校や地域でより豊かに生活するために必要な資質・能力を育てる。</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会で生活するために必要な基本的な生活習慣や生活態度を身に付け、自ら健康な心身づくりに取り組む態度を育てる。 集団生活におけるルールや約束を理解させるとともに、生活を豊かにする各教科等の知識・技能を身に付け、周りの人に自分の意見や考えを伝える力を育てる。 <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分を大切にしたり、気持ちや他者を思いやる気持ち、人間関係を形成する力を育み、地域との交流などを通して、互いに理解し合い、共に地域や社会で生きる基礎を育てる。 学校や地域での生活において、自ら進んで考えたり、我慢したり、正しい行動をしようとする態度を育てる。 <p>〔学びに向かう力、人間性等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に主体的に取り組む態度や課題に集中する力を身に付け、積極的に集団参加する態度を育てる。 	①生徒一人一人の実態や発達段階を踏まえ、生徒の実態に応じたICT機器活用の充実を図る。	A	<p>○タブレットを調べ学習や記録の媒体として使用することはもちろん、学習アプリの活用や発表資料の作成など、生徒の実態に応じて活用している。</p> <p>○集団に入りにくい生徒がリモートで授業に参加できた。</p> <p>●休み時間などのタブレットの使用について指導が必要。</p> <p>●Wi-Fi設備が使用のレベルに追いついていない。</p>
		②人権に対する生徒・職員の意識の向上を図るとともに、自他の良さに気づき、認め合いながら自己肯定感を高める教育活動を実践する。	B	<p>○友達に対する心遣いの気持ちや、発表に傾聴できる姿勢を育てる努力をしている。感情のコントロールが難しい生徒などにも、保護者と連携を取りながら指導できた。</p> <p>●職員の言葉掛けや指導について、厳しい意見をいただいた事例があった。本意が伝わり、指導として成り立つ言葉掛けを心掛けていく。</p>
		③自立活動における指導内容の充実と専門性の向上に努める。	A	<p>○発音指導の視点など、外部専門家の助言を生かし、対象生徒にとって効果的な指導につなげることができた。</p> <p>○個々の実態に応じた指導をグループで話し合い、指導に生かすことができた。</p>
		④学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動を進めながら「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努める。また、実践に基づいたより良い教育課程編成に努める。	B	<p>○生徒同士で話し合って解決する場面を増やすように努力している。</p> <p>●行事が立て続けに行われ、生徒たちの混乱や負担になる弊害があった。</p> <p>●教科の内容の扱いや、内容のすみ分けについて、検討が必要である。</p>
		⑤安全で安心して活動できる環境を整備するとともに、事故防止に努める。	A	<p>○窓からの飛び出し防止のためにストッパーを付けたり、生徒の気持ちの安定と他生徒の安全確保のためのスペースを設置したり、事例に応じた安全対策ができた。</p> <p>○玄関横の龍の設置場所を整理し、避難経路を確保した。</p> <p>○日常の薬品の管理や救急搬送などの突発的事例に、マニュアルどおりの適切な対応ができた。</p>

改善策について

重点目標の番号	改 善 策
①	休み時間のタブレットの使用について、生徒同士で目的や仕様についての話し合いをもたせるなど、主体的で対話的な指導につなげる。
②	事例について共有し、服務規律の観点からも意識を高めて指導を行う。
④	行事について、他学部とも調整をしながら負担のない時期と精選を検討する。「各教科等を合わせた指導の在り方についての検討」を次年度の重要取組事項として、今年度から準備に入る。

令和5年度自己評価表1-3：高等部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	本年度重点目標	評価	成果 (○) と課題 (●)
高 等 部	<p>高等部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を最大限に生かしながらか自立心を高め、より豊かな社会生活・職業生活を主体的に営む上で必要な資質・能力を育てる。</p> <p>〈普通科〉 〔知識及び技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般において、社会的自立に必要な生活習慣や身辺処理能力の定着を図る。 ・社会生活におけるルールや約束事を理解させるとともに、生涯を通じて生活を豊かにするために必要な各教科等の知識・技能を身に付け、自分の意思や考えを伝える力を育む。 <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の気持ちや考えを尊重し、豊かな人間関係を形成する力を育む。 ・豊かな社会生活を見据えて、目標と責任をもって自ら自律的に判断し、主体的に行動する態度を育てる。 <p>〔学びに向かう力、人間性等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、苦手なことや努力次第でできることにも挑戦しようとする意識を高めるための取組を行う。 	<p>① ICT機器を活用した指導を工夫し、学習意欲や学習効果の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中のタブレットPCの持ち帰りを考慮した、アプリの準備と学習課題の設定。 ・各教科会における活用状況の確認と活用例の共有。(他学部の活用例も参考) 	C	<p>○漢字学習や日本地図などのアプリを準備し授業等で活用が進んでいる。</p> <p>●タブレット PC の持ち帰りを希望する生徒は少なく、家庭での活用はあまり進んでいない。</p> <p>●タブレット PC を活用した活動例を共有する仕組み(教科会・県教委等の共有サイト)は整ってきたが、その活用については職員の中で温度差がある。</p> <p>※1年生にタブレット PC が配付されるまでに時間が掛かり、学校のものを使い回しているのが現状である。</p>
	<p>②生徒の実態に対応した学習グループ及び教育課程の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における学習グループの課題の集約を行い、教育課程の検討を行う。 	B	<p>○拡大教科会を行うことで、小・中・高の学びの履歴や学習内容の重なりを確認することができた。併せて、教科書の確認もできて良かった。</p> <p>○障害が重度重複の生徒の教育課程について、実践を重ねながら検討を進めることができた。</p> <p>○●職業や総合的な探究の時間など今後更に検討すべき内容はあるが、今年度の反省を生かして来年度の教育課程を検討することができた。</p> <p>●教科会で話し合う内容が、教科によって違う。何を話し合うべきか、時期に応じて設定できるとよい。</p>	
	<p>③コンプライアンスの遵守を図り、互いを認め合い尊重し合う意識を高める取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした互いの人権意識を高めるための取組を行う。 	B	<p>○心の教育、人権教育、情報教育等で相手の気持ちを考えた言動等を学習し、生徒に考えさせることができた。</p> <p>●生徒会を中心に、「あいさつ運動」や校内美化を呼び掛ける活動を行うことができたが、もっと充実した取組を促す必要がある。</p>	

<p>する態度を育てる。</p> <p>〈就業サービス科〉 〔知識及び技能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を目指し、各教科等の取組を通して一般就労に必要な生活習慣の定着を図る。 ・社会生活・職業生活におけるルールやマナーを理解させるとともに、必要な専門的知識や技能、コミュニケーション能力を育む。 <p>〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立的態度や他者の気持ちや考えを尊重し、望ましい人間関係を形成する力を育む。 ・豊かな社会生活・職業生活を見据えて、目標と責任をもって自らの規範意識に基づき自律的に判断したり、主体的に行動したりしようとする態度を育てる。 <p>〔学びに向かう力、人間性等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、常に自己の課題を理解して解決を図ろうとする態度を育てる。 	<p>④就労体験実習等を通し、社会体験の充実を図るとともに、保護者と連携した生徒の特性に応じた進路指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人及び保護者の進路への意識を高める取組を工夫し、目指す進路実現に必要な情報の共有を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○実習を通して進路に対して生徒・保護者の意識を高めることができた。 ○実習報告会を全学年で行い、生徒の主体的な取組が見られた。3年生は、発表をしたり質問を受けたりすることで、事後学習の内容を深めることができた。また、1・2年生は課題意識をもちながら、3年生に職業についての質問ができた。 ○就業サービス科の実習報告会は保護者にも参加してもらい、実習先の情報を提供することができた。 ●保護者に実習の意図や先方から受け入れてもらっている実情など、十分に伝わっていないケースがあった。
	<p>⑤安全で安心できる教育環境の整備と設備の充実を図るとともに、環境美化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備状況の確認と事務室と連携した保守、整備を行う。 ・校舎増築に向けて、事務室と連携し、工事の進捗状況等についての情報を共有する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な情報機器管理、毎月の安全点検の実施を行った。破損箇所は、環境整備部と連携し修理をしてもらうことができた。生徒のiPadや周辺機器の管理も継続して行うことができた。 ○美化委員会を中心に休み時間を使って、高等部棟の掃除を行い環境美化に努めている。 ○校舎増築の状況をホームページに掲載したり、校内に掲示したりした。また、生徒に実際の工事の様子を見せた。

改善策について

重点目標の番号	改善策
①	<ul style="list-style-type: none"> ・県教委・教育センターが出している研修動画や資料を活用する。 ・情報教育部を中心として、研修会を企画し、研修を進める。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部を中心として、各学期の前後に教科会を計画し、計画的に教育課程の検討を進める。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の活動内容や時間設定を見直し、生徒会活動の活性化を促す。 ・心の教育、人権教育、情報教育等を、今年度の取組を基に見直しをして、より充実させる
④	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりや学年だより、保護者会の内容など、保護者が関心をもてるように工夫し、進路に関する保護者の理解啓発を図る。

令和5年度自己評価表1-4：高等部対馬分教室の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	目 標	本年度重点目標	評価	成果(○)と課題(●)
高等部 対馬 分 教 室	高等部の教育課程に基づく教育活動を推進し、生徒一人一人の能力や意欲を最大限に生かしながら自立心を高め、より豊かな社会生活・職業生活を主体的に営む上で必要な資質・能力を育てる。	○夢や願いの実現に向けて粘り強く取り組む生徒の育成を目指し、道徳教育と進路指導の充実を図る。	B	○生徒の指導や支援に関しては、家庭と連携を取りながら大きな問題もなく、効果的な実践ができている。特に3学年の生徒たちは、自分の願いを実現できるよう自ら課題に向き合う姿勢が表現できるようになった。 ●生徒たちに教師自らが夢を語るような場面を設定し、モデルとなるような機会を作り上げたい。
	〔知識及び技能〕 ・学校生活全般において、社会的自立に必要な生活習慣や身辺処理能力の定着を図る。 ・社会生活におけるルールや約束事を理解させるとともに、生涯を通じて生活を豊かにするために必要な各教科等の知識・技能を身に付け、自分の意思や考えを伝える力を育む。	○経年研修における授業研究を有効に活用し、「一人一人の教育的ニーズを踏まえた授業改善及び効果的なチーム・ティーチングの在り方」の校内研究を推進する。	B	○教科会や授業前の打合せにおいてしっかりと役割分担がなされており、安全が確保できる必要最小限での配置での授業ができるようになっている。 ●小集団での取組ではなく、意図的で組織的な取組になるよう次年度以降も継続していく。
	〔思考力、判断力、表現力等〕 ・他者の気持ちや考えを尊重し、豊かな人間関係を形成する力を育む。 ・豊かな社会生活を見据えて、目標と責任をもって自ら自律的に判断し、主体的に行動する態度を育てる。	○ICT機器を有効活用した指導の充実と、学習意欲や学習効果の向上を図る。 (Web授業や動画配信等、ICT機器の持ち帰りを想定した準備を進める。)	B	○島外での実習があった学年については、Teamsを活用し日々の振り返りや細かい指導ができた。授業では多くの場面でICT機器が活用されており、生徒だけでなく教師側のスキルも日々向上している。 ●新入生については、機器が手元に届いておらず、使用することすらできていない。
	〔学びに向かう力、人間性等〕 ・興味や関心の幅を広げ、卒業後の生活を豊かにしようとする意識を高めるとともに、苦手なことや努力次第でできることにも挑戦しようとする態度を育てる。	○対馬市教育委員会と連携を深めながら、対馬市における特別支援教育の理解・啓発及び充実を図る。	A	○対馬市特別支援教育(TSUNAGU)研修会では、分教室と対馬市教委で協働して企画運営ができた。岩永竜一郎先生を講師として招き、分かりやすく充実した研修会となった。また、参加者からの事前アンケートに基づき、分教室の進路状況や教育課程についても説明することができた。
		○本校事務室・対馬高校との連絡を密に図り、教育環境改善への取組を推進する。	A	○虹の原本校、対馬高校事務室に対馬分教室の現状を伝え、早めに相談することで網戸や掲示板などを設置してもらうことができた。今後も正確な情報の連絡と早めの相談を心掛けていく。

改善策について

重点目標の番号	改 善 策
	(生徒) 1 部活動・限られた時間と日数の中で実施しており、生徒にとっては物足りなさや負担感もあるかもしれない。部活動の担当者を中心に部活動参加生徒への聞き取りや対話を重ねていく。
	(保護者) 1 美化・評価結果を周知することにより、対馬分教室としての課題意識を共有する。誰もが落ちているごみは拾う、汚れていれば掃除をする雰囲気づくり。 2 寄宿舎・対馬分教室の保護者にとって回答しづらい内容であったと考える。

令和5年度自己評価表2-1:教務部の取組

【評価基準】 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
教務部	<p>①学校教育目標を達成するために、教育計画の企画立案及び連絡調整を図り、効果的な教育活動の推進に努める。</p> <p>②教務事務を的確に処理し、学校運営の円滑化を図る。</p>	①教育課程編成に係るスケジュールの見直し及び次年度の教育課程編成を円滑に行う進め方を整備する。	B	<p>○例年2回だった教育課程委員会を、「協議の柱の選定」及び「次年度の課題設定」の2回(計4回/年)を追加して設定できた。</p> <p>○「拡大教科会」を年2回設定し、まずは指導内容の取扱いの偏りがあるかないか、各部縦割りで協議できた。</p> <p>○例年よりも教育課程編成に早く取り掛かることで、時間と心に余裕をもって取り組むことができ、意識が高まった。</p> <p>●指導内容と教科書との関連性が課題である。教科書寄りに指導内容がないか。3年間で1冊の使用はどうか。年間指導計画をみれば、専門外の先生でも授業の組み立てができるような表記にする(それぞれの項目に、県統一の段階をカッコで記入しておく等)。</p>
		②校務事務支援システム運用に対し、校内マニュアルの改善及び運用マニュアルを基にした円滑な運用を目指す	B	<p>○前期の通知表作成以降、全面的に校務事務支援システムを用いた運用に移行できた。</p> <p>○実際にシステムを利用して入力したことで、大体の先生にやり方を理解してもらうことができた。</p> <p>○学年の職員から質問等を受けることがあり、教務主任へ確認し学年に下ろすなどの対応があった。</p> <p>●高等部では、入力・修正・出力などの手順において、担任だけではうまく処理しきれなかった点があるため、「成績一覧表提出」を、各教科・授業担当者が作成できる「教科ごとの単票形式」で運用を目指していきたい。</p> <p>●エクセルからの転記はやはり混乱した。表記に関して、字数オーバーが多いため、あらかじめある程度の記入例などを提示する。</p>

改善策について

重点取組事項の番号	改善策

令和5年度自己評価表2-2：研究・研修部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
研究・研修部	○学校教育目標に掲げる資質・能力の育成を目指し、一人一人の児童生徒に応じた指導・支援の充実を図るため、各学部・寄宿舎が一体となって研究を推進する。 ○一人一人の職員の専門性向上を目指し、校内における研修会や研究授業等の企画及び運営を行う。 ○教育センター講座をはじめ、県内外における各種研修会等の情報発信を行い、積極的な参加を促すとともに、効果的・効率的な研修報告会の企画・立案を行う。	①キャリア教育全体計画の改善を図り、「虹のまつり」をはじめとした学校行事のねらいを明確にして、小中高のキャリア教育の充実を図る校内研修を行う。	B	○キャリア教育に掛かる「4つの育てたい力」について、学部間を超えて話し合うことができ、小学部から高等部までの系統性について考えることができた。 ●小中高のまつりのスタイルが違うことで学部間での考え方に違いがある。学部内でも振り返りの授業の仕方に一貫性がなく課題である。
		②進路指導部と連携したキャリアパスポート(虹の原 Ver)の改善を行う。	B	○これまで学部独自で取り組んでいたキャリアパスポートについて、意見を集約しながら本校の基本的な形ができた。今後の管理は進路指導部が行うことで継続的に運用・改善ができる。 ○高等部は今年度からキャリアパスポートを運用し始めた。 ●学部によっては、進路指導部と協議する機会が少なかった。
		③初任研・経年研・中堅研等の研修機会の設定と授業研究会の充実を図る。	B	○教務の協力もあり、年間を通して計画的に研究授業と授業研究会を実施することができた。 ○経過年数に応じた段階的な授業研究会ができるようになってきている。 ●学級や学年の指導で時間の融通がきかず、研究授業の参観に行くことが難しい。 ●授業研究会への参加は、数が多すぎて、通常業務との兼ね合いから積極的に参加をすることが難しい。
		④オンライン等を活用した研修会の充実を図り、職員の専門性の向上を目指す。	B	○対面の研修だけでなく、現職教育研修の一環として、全体研究に関わるオンデマンドでの研修動画を紹介することができた。 ○外部講師による人権教育研修と現職教育研修を対面形式で行い、職員の専門性の向上につながった。 ●長期休業中に各々が、興味ある分野の研修をオンラインで受講できるような体制づくりが必要である。 ●研修会の案内等を行っているが、県外等研修に参加すること自体が難しい。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策

令和5年度自己評価表2-3：生活・生徒指導部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
生活・生徒指導部	①児童生徒一人一人が自分を大切にしながら学校生活を送り、集団の一員として適応能力の向上を図る指導を行う。	①児童生徒一人一人が充実した学校生活を送ることができるように、教育支援部が実施する学校生活アンケートや行動観察による実態の把握を行い、いじめや問題行動等が発生しないような支援や指導に努める。	B	○いじめは、確認されていない。今後も日常の行動観察を行い、問題行動が発生しないように努めていきたい。 ●気持ちが不安定になり、友達や教師に暴言を言うてしまう行動が見られた。その都度、相手への謝罪や言い直しを促すなどの継続指導を行っていきたい。
	②基本的な生活習慣の確立を図りながら、社会的規範意識の涵養に努め、問題行動等を未然に防止する。	②携帯電話・スマートフォンの指導等、本校が抱える課題と向き合い、保護者・全教職員との連携を図り、その改善に努める。	B	○問題行動のあった生徒については、担任からの継続指導を行っている。 ●SNS、アプリゲームの使用の際、知らない人とつながる事案があった。保護者にも協力してもらい大きなトラブルになる前の段階で対応ができた。
	③児童生徒が登下校や学校生活において、安全かつ安心して活動できるよう、安全教育（交通事故、犯罪への対応等）の徹底を図る。	③交通安全教室、携帯電話・スマートフォン安全教室、不審者対応訓練等を実施し、スクールサポーターと連携しながら安全教育の充実を図る。	B	○スクールサポーターを招いて8月に職員対象、12月に児童生徒対象の不審者対応避難訓練を実施した。 ○●スマートフォンの使い方による生徒指導が多くあった。外部講師を招いて講義を行った。生徒はいつもと違う環境の中、緊張感をもって講師の話に耳を傾けていた。 ○●校外検索マニュアルを新しく作成した。そのマニュアルに準じて校外に出での検索訓練を実施した。反省を基に、検索マニュアルの見直しを行っていきたい。
	④児童生徒自らがチャレンジ精神をもって、学校を活性化させていく活動ができる児童生徒会を目指す。	④あいさつ運動、集会活動、委員会活動などの児童生徒会活動や学校行事を積極的に行い、児童生徒が自主的に活動し、親睦を図るよう努める。	A	○今年度、「あいさつ運動」は、1月までに2回実施（7・9月）、2月にも1回予定している。 ○虹のまつりや集会での進行役など、昼休みなどに時間をとって行うことができた。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策

令和5年度自己評価表2-4：防災対策部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
防 災 対 策 部	①地震・津波・豪雨等の自然災害や火災等から児童生徒を守るため、事前の危機管理（体制整備、点検、避難訓練）、発生時の危機管理（初期対応、二次避難）、事後の危機管理（安否確認）、引き渡しと待機等についての組織的対応の推進を図る。 ②災害発生時、本校が避難所を開設する際の体制整備を行う。	①緊急時の手順、役割分担等、実際に機能するための避難訓練の充実と、教職員一人一人安全管理意識の向上を図る。	A	○1回の職員研修と3回の訓練を実施することができ、課題や改善点の洗い出しができた。 ●近年災害が増えてきており、今年度の訓練の反省を生かし、より実践的な訓練の工夫が必要である。
		②ろう学校との共同訓練及び校舎増築に伴う各種訓練の見直しを行い、その課題の解決を図る。	B	○ろう学校との合同訓練は実施できなかったが、避難経路や避難場所など、互いがスムーズに行動できるような確認ができた。 ○新校舎増築に向けて新たな課題の洗い出しができた。
		③災害時の備品、備蓄品の洗い出しと管理をする。	B	○校内にある備品の洗い出しができた。今後は、備品の有効活用や足りない備品の補充を計画的に行っていく。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策

令和5年度自己評価表2-5：教育環境整備部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
教育環境整備部	①安心、安全で健康な職場づくり、児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成のために4S（整理、整頓、清掃、清潔）活動を促す。 ②事務室と連携しながら、校舎内外の施設設備の整備・充実に努める。 ③環境教育を意識し、ごみの減量や分別、節電などの省エネ環境の充実に努める。	①毎月の安全点検では、各個人に割り当てた点検表と遊具の点検の二つを実施し、速やかに管理職からの確認をもらう。また、事務室と連携して校舎内外の整備に当たる。	B	○安全点検は速やかに報告、対応をしていただいた。 ●改善個所について先生方への報告が不十分だった。
		②校舎増築工事中の安全な教育活動に向け、学校全体で環境整備に取り組む。	A	○工事だよりを校内に掲示し、進捗状況を児童生徒へ伝えることで、工事への意識付けを行った。 ○工事中の職員や保護者の駐車場利用について、関係者間で連携して取り組み、トラブルの報告もあがっていない。
		③毎週水曜日は職員室清掃であることを引き続き意識できるよう、各部署で声掛けを行い、必要な清掃用具を準備する。	B	○特に呼びかけなどは行わなかったが、忘れることなく取り組んでいただいた。 ○清掃用具は適宜補充を行った。 ●長期休業時、職員室外の場所の清掃が不十分だった。
		④通常のごみや資源ごみなどが正しく処分されているか係で点検し、分別処理の意識を高める。	C	●廃棄物置場の利用について確認が必要だった。分掌主任が定期的に巡回を行ったため、分掌内でごみ捨て場等の点検の役割分担は行わなかった。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
①	・改善した部分を、各部署の環境整備部から点検担当者へ報告する。また、ポータルサイト等での報告も活用する。
③	・長期休業中の環境整備について、清掃計画を作成し、周知、実践する。
④	・廃棄物置場の利用について、注意事項を作成し先生方へ周知するとともに、廃棄物置場の入り口に掲示する。

令和5年度自己評価表2-6：体育・健康部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
体育・健康部	①個々の能力や特性に応じた身体活動を通して、個々の課題に気づき、総合的な体力の向上と心身の調和的発達を目指す。	①学校における食の安全と衛生面に対する意識を高めるとともに、授業や給食、掲示等を活用し、食育活動の充実に努める。	B	○食に関する指導の全体計画を学期始めに分掌部会で確認し、各部で目標や視点等の共通理解を図るようにした。また、2学期末に学部ごとに目標等の見直しを行い、文言を変えるなど行った。 ○生単や集会時に、栄養教諭にゲストティーチャーとして参加してもらい、指導を行うことで、食育の指導の充実につながったと考える。 ○体育館横の掲示板を活用し、食堂までの行き帰りを利用し、食育に興味をもたせたり、知識を広げたりできた。 ●どの教科のどの場面で実施するのかが分かりにくいとの意見がある。 ●掲示板の活用がクラス担任によって差があり、活動を進める必要がある。
	②健康や安全、衛生面に対する意識を高め、健康の保持増進と基本的な生活習慣が確立できるように努める。			
	③児童生徒が安全で楽しく活動できるよう体育設備・用具などの整備に努める。			
	④児童生徒が自らの食生活について考える習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう食育学習の充実に努める。			

改善策について

重点取組事項の番号	改善策

令和5年度自己評価表2-7：進路指導部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
進路指導部	①児童生徒の障害の状態や特性、能力、性格等を把握し、適性の発見と伸長に努め、一人一人のニーズや発達段階に応じた進路指導を系統的・発展的に行う。 ②児童生徒の将来の社会的・職業的自立を目指すために、担任・保護者及び地域社会や各支援機関との連携を図りながら、進路指導体制の整備・効率化を図る。	①「キャリア・パスポート」を活用した小・中・高一貫したキャリア教育の在り方を検討する。	C	○高等部では今年度から運用を始め、研究と関連して、次年度に向けての検討ができた。 ●系統性の検討ができなかったため、次年度は検討を行っていききたい。
		②就労体験実習、職場体験実習、進路学習等において、関係機関と連携し、効果的な進路指導を行う。	B	○企業や福祉事業所の協力を得ることができ、ほぼ予定どおりに実習や職場見学等を行うことができた。 ●外部講師等の活用ができなかったため、特に高等部においては進路決定に向けて効果的な指導を行う上でも、活用できるよう検討していききたい。
		③児童生徒の進路先につながる企業や事業所等の情報提供の充実を図る。	B	○福祉事業所のパンフレットを掲示し、持ち帰りができるようにした。行事等で来校したときに持ち帰る保護者もあり、一定の効果はあった。 ●今年度も福祉事業所説明会を実施することができなかった。そのため、情報提供が十分できていない。次年度は大村市内の福祉事業所等の協力を得て、学校以外の会場で実施する予定。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
①	① 系統性をもたせたキャリアパスポートの活用に向けて、他の分掌とも連携し、1学期の各学部の取組や様式をまとめ内容や様式の検討を行う。

令和5年度自己評価表2-8：情報文化部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
情報文化部	①文化的行事の企画・運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。	①児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を工夫し、虹のまつりの企画運営を行う。	A	○虹のまつりについては、各学部の目標、各児童の実態に即した演技発表や製品バザーを行うことができた。 ●虹のまつりについては、会場の収容人数を考慮して来場者数の制限を行ったが、よりきめ細かな説明を行う必要があった。
	②児童生徒の作品など、学習活動の成果を総合的に生かし発表する場を設ける。			
	③視聴覚機器・機材及び図書を整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	②情報セキュリティやICT機器活用に関する研修等を通して、安全なクラウド利用の推進を図るとともに、職員の情報活用スキルの向上を図る。	B	○Teamsの活用については、資料の共有場面等で活用が見られるようになってきた。 ●教師のクラウド利用については、OneDrive等の利用に向けた研修等を取り入れる必要があった。
	④情報機器を活用し、情報教育の推進及び教員の業務の効率化を図る。	③児童生徒用タブレットパソコンの安全安心な持ち帰り及び活用の充実に努めるとともに、教師用タブレットパソコンの整備及び管理徹底に努める。	B	○児童生徒用タブレット端末の持ち帰りについては、全校統一の書式を作成し、適切に管理を行うことができた。 ●児童生徒用タブレット端末については、常時の持ち帰りが実施できるよう、体制を整える必要がある。
	⑤情報機器の管理やセキュリティの保守を行うとともに、個人情報の危機管理について職員への周知や研修を行う。			

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
③	・児童生徒用タブレット端末の常時持ち帰りの実施に向けては、「一人一台タブレットパソコンの自宅への持ち帰りに関する規定」の見直しを今年度中に行う。また、手続きの流れについては、留意事項等を情報担当者で事前に確認することで、タブレット端末の安全な持ち帰りを組織的に運用できるようにする。

令和5年度自己評価表2-9：教育支援部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
教育支援部	①個別の教育支援計画を作成することにより、教員・保護者・関係諸機関の一層の連携を図る。 ②近隣の小・中学校等との交流及び共同学習、地域住民との交流活動の一層の充実を図る。 ③特別支援学校としてセンター的機能の充実を図るとともに、関係諸機関との連携を通して校内支援の充実を図る。	①個別の教育支援計画作成に係る前期の個人面談の期間を保障することで、保護者との連携を深め、個別の教育支援計画の効果的な作成及び、有効な活用の推進を図る。	A	○事後の職員アンケートで、今回の取組について「よかった」の回答が、96%を超えた。 ○個別の指導計画を作成する前に個別の教育支援計画の目標設定の流れに沿うことができた。 ●来年度は校舎新築工事に伴う駐車場不足に対応する方法で実施する必要がある。小・中学部と高等部で週を変えて実施し、面談の時間の間に職員の休憩時間を挟むことで、保護者の自動車の入れ替えが完全にできるようにする。
		②新型コロナウイルス感染症対策緩和に対応した交流及び共同学習や地域住民との交流活動の充実を図る。	B	○竹松小学校との直接交流が、小学部4～6年で実施できた。児童同士が直接関わり、楽しい時間を共有できた。1～3年生は間接交流を実施した。 ●12月実施予定の郡中学校と中学部の交流が、感染症の影響で中止となった。来年度は、実施時期を考慮する。
		③学校見学会の1学期実施により、円滑な就学指導の推進を図る。	B	○入学希望の保護者や各市町教育委員会等からの要望に応え、今年度、1学期実施とした。暑さ対策のため、校内の協力を得て、多目的ホールを主会場として実施できた。 ○見学会実施後、大村市教委からは、夏休み以降の保護者との就学に関する相談が深まりやすいとの感想をいただいた。 ●市町教育委員会の要望に沿って1学期実施にし、案内配付に重ねて電話等で連絡をしたが、その後の個別の学校見学（入学・転入希望者）者の数（学部主事対応）は例年どおりで減る傾向になかった。しかし、教育支援部としてできることは、今年度同様、研修会等で関係者にアナウンスしたり、市町教育委員会に連絡を入れたりすることを考えている。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策

令和5年度自己評価表2-10：自立活動部の取組

【評価基準】 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果（○）と課題（●）
自立活動部	①自立活動における実態把握、指導目標の設定、指導内容の設定、指導方法、学習評価、指導改善に関する教師の専門的な知識や技能を向上し、教職員の自立活動に関する専門性の向上を図るとともに、組織的実践力を高める。	①個別の指導計画（自立活動）及び補助シートの作成の仕方・考え方を校内に浸透させること等を通して、課題関連図に基づいた指導計画の策定に係る専門性を向上させる。	B	○提出された指導計画等を自立活動部員が読んで気付きを記入したり、話をしながら一緒に考えたりすることで、指導計画の考え方について伝えることができた。 ○教育センターが作成しているオンデマンド動画や参考になる書籍の紹介を虹ポケの中で行ったり、指導計画作成の際のポイントなどを伝えたりすることができた。 ●課題関連図の中で矢印の出発点ではなく終点にある課題を中心課題にしているなど、考え方については十分に浸透させることができなかった。
		②昨年度の自立活動の指導に係る力量形成に向けたチェックシートの結果を踏まえ、自立活動の指導方法（必要な指導方法等の理論の理解・選択と活用、授業展開の立案と実践）の力量形成に向けた校内支援、情報発信を行う。	B	○時間における指導で実践していることをまとめ、報告の場を作ったり冊子にしたりすること、指導で活用できる書籍の購入を通して指導方法についての情報を提供することができた。 ○外部専門家活用事業を活用し、校内相談会を実施した他、研修会や報告会を実施することができた。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
①	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握から目標設定までの考え方や、課題関連図の整理の仕方についての全体研修会を年度始めに実施する。 ・指導計画作成の時期に検討週間を設定し、複数の教師で検討する場を設定する。検討を通してお互いに学び合い、専門性を向上できるようにする。

令和5年度自己評価表2-11: 寄宿舍の取組

【評価基準】 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
舎務部	①学校、家庭、関係機関との連携を図り、健全で楽しい集団生活を送ることができるよう支援する。	①職員の共通理解の方法、指導体制の見直しを行い、学校、家庭、関係機関が連携し、寄宿舍生が安心・安全で快適な生活が送れるように努める。 ・学校、家庭、関係機関と連携を密に行い、一貫性のある指導・支援に努める。 ・寄宿舍生が健康で安心して生活できる環境づくり、体制づくりに努める。	B	○学級担任が寄宿舍に来て、生徒の様子を確認したり、支援方法について、登下校の送迎時、連絡帳などを通して共通理解をしたりする機会が多く取れた。 ●学級担任との連携が密でないときがあり、保護者を戸惑わせてしまう場面があった。
	②寄宿舍生が安全・安心な生活が送れるよう、十分な対策を立てて指導に当たる。			
	③寄宿舍生の基本的な生活習慣の確立を図り、健康の保持・増進に努める。	②年間を通して計画的に寄宿舍生の指導・支援に関する研究・研修を行い、専門性の向上に努めるとともに、研修成果が児童生徒にフィードバックされるような体制づくりを行う。	B	○進路指導主事からの研修や、卒業生を招いての研修を通して、寄宿舍生の支援に関する見識を深めることができた。 ●全員出勤日での研修の時間が少なく、研修内容を深めるまでには至らなかった。
	④寄宿舍生の自主的な活動を促し、個々の能力が十分発揮できるよう、個々の内面の動きや特性に配慮した指導・支援を行う。			

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
①	①常に学級担任と連携し、保護者への連絡内容、校外学習や実習関係の連絡などの共有を行う。不明な点は連絡を取りやすい環境を整える。
②	②夏季休業や冬季休業中の研修の時間を確保し、全員が研修について検討する機会を増やす。

令和5年度自己評価表2-12:事務部の取組

【評価基準】 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

	運営方針	重点取組事項	評価	成果(○)と課題(●)
事務部	①児童生徒の安全を守り、社会の変化に対応した教育環境を整備するため、計画的に改修工事を行うとともに、学校の管理運営に要する経費を確保することで、効率的な教育活動が展開できるようにする。 ②適正かつ迅速な事務処理を行うとともに、明るく働きやすい職場環境づくりに努めることで、保護者の信頼に応える。	①関係機関及び校内の連絡調整を密にし、増築工事を円滑に進める。	A	○高等部棟増築工事は令和5年9月着工したが、毎週1回施工業者と打合せを行い、校内の教職員に工事内容等について適宜情報を提供しており、順調に工事が進んでいる。また、工事の進捗状況について、学校のホームページに月2回程度の頻度で掲載をするなど情報公開にも努めている。
		②安心・安全・快適な教育環境を整備するため、長期的展望に立った改修計画を策定する。	A	○修繕が必要な箇所は、優先順位をつけながら順次対応をしている。築20年が経過し、施設設備の劣化が見受けられるため、本年度改修計画を策定した。今後は予算の確保に向け、関係機関に改修の必要性等を説明していく。
		③「チーム事務室」として、働きやすい職場環境づくりに努めるとともに、研修に積極的に参加する。	B	○事務処理については、遅延なく適正に執行ができています。 ●本年度事務職員が減員となったのに加え、年度当初から事務職員が2名代わったこともあり、全ての職員が年1回以上の研修を受けるという目標は達成できなかった。

改善策について

重点取組事項の番号	改善策
③	更なる事務の効率化を図り、積極的な研修参加に努めていく。